

## 文学研究科入試問題 解答例・出題意図

### 心理学領域 <博士課程前期課程・正規学生(一般)>

#### 【専門外国語科目】

##### ■解答例

##### 【問Ⅰ】

受験生各自の研究内容に依存するが、解答例として以下に1つあげておく。

My study aimed to identify game situations in baseball where "momentum" shifts negatively and to examine players' psychological states and competitive abilities in those moments. A preliminary and a main survey were conducted with a college baseball team. The preliminary survey showed that players often perceive momentum loss during defensive play, especially after errors. In the main survey with 61 players, four such situations were selected, and the State-Trait Anxiety Inventory (STAI) and the Diagnostic Inventory of Psychological Competitive Ability for Athletes (DIPCA) were administered. Most players recognized momentum shifts, particularly after teammates' errors, extra-base hits allowed, or strikeouts. These events triggered anxiety and tension regardless of individual psychological traits.

##### 【問Ⅱ】

省略

##### ■出題意図

##### 【問Ⅰ】

心理学分野では国際会議や国際誌で研究成果を発表することが期待されています。この問題は、自分自身の研究を英文で簡潔に説明できる語学力を確認するものです。

##### 【問Ⅱ】

心理学分野では英文論文を多数読むことが期待されています。この問題は、論文要旨を速読して内容を把握する力を確認するものです。

## 【専門基礎科目】

### ■解答例

#### 【問Ⅰ】

①課題結果(成功・失敗)×原因帰属の種類(能力・やり方)を独立変数、自己効力感を従属変数とした参加者間2要因実験計画(2×2)の参加者間2要因分散分析である。2つの独立変数それぞれの主効果と交互作用を検討でき、仮説は交互作用に関するものだから。

②(ア) a:成功・能力帰属、b:成功・やり方帰属、c:失敗・能力帰属、d:失敗・やり方帰属(イ)略

③交互作用が認められた場合、1つの要因の効果はもう1つの要因によって調整されているが、具体的にどの水準の組み合わせにそれが見られたのかはまだ理解できないため。仮説に基づけば、失敗の場合に特に2つの原因帰属(能力・やり方)の水準差が認められるはずなので、課題結果ごとに2つの原因帰属(能力・やり方)の水準差を比較することが適切である。

④様々考えられるが、たとえば以下の諸点に関する言及が必要である。

- ・操作前(ベースライン時)の自己効力感の測定・確認
- ・2つの独立変数の操作チェックの確認
- ・サンプルサイズ設計への言及
- ・課題そのもの並びに課題の難易度、それぞれの妥当性の確認

#### 【問Ⅱ】

受験生ごとに異なるが、一例をあげれば以下の通り。

人間が報酬の大きさや確率に基づいてどのように行動を選択するかを、実験課題を用いて検討し、意思決定に関わる心理的メカニズムを明らかにすることを目的とする研究。

My study aims to investigate how people make behavioral choices based on reward magnitude and probability, using experimental tasks to reveal the underlying psychological mechanisms of decision-making.

#### 【問Ⅲ】

20項目と多いため、省略。各用語や人名の解答例は心理学辞典(例えば、『有斐閣 現代心理学辞典』、『誠信 心理学辞典[新版]』)などを参考にするとよい。

### ■出題意図

#### 【問Ⅰ】

心理学統計法・研究法の基礎的理解を中心に、実習や演習等を通して身につく心理学研究で用いられる論理と、問題の実証方法を策定・批判する能力について問う問題である。本問題は単に心理学統計における公式の適用方法やその数式を覚えているか、という点に重きを置いてはいない。仮説とそれを確かめるために実施する研究計画・実験デザインから、データの統計的分析、結果の実質的な解釈、そして研究の批判的吟味にいたるまでの心理学研究における一連のプロセスを、首尾一貫した論理性を確保しながら理解し、それを一つの具体例にまで適用することができるまで熟練しているのか、を総合

的に評価することに主眼がある。

## 【問Ⅱ】

受験願書に記された研究テーマを本当に理解しているかどうかを確かめる設問です(受験願書は他者が執筆することも可能なため)。

## 【問Ⅲ】

専門用語および学者の業績を簡潔に回答する能力を見る設問です。

## 【専門科目】

### ■解答例

#### 【問Ⅰ】

受験生各自の研究内容に依存するが、解答例として以下に1つ挙げる。

私の興味を持っている研究分野において特に重要だと考える研究として、Clayton & Dickinson (1998)のエピソード的記憶の研究を取り上げる。この研究では、貯食行動を行うカケスを対象に、好みだがすぐに傷んでしまうエサ(ガの幼虫)と、相対的に好みではないが長期保存が可能なエサ(ピーナッツ)を隠させ、後に掘り起こさせるという実験が行われた。隠させてから掘り起こさせる時間を操作したところ、その時間が短い場合は好みである幼虫を、時間が長く傷んでいると思われる場合にはピーナッツの方を掘り起こす行動がみられた。このことはカケスが、「いつ」(経過時間の長短)、「どこ」(隠した場所)に、「なに」(エサの種類)を隠したかを記憶していたことを示している。彼女たちは、この実験で示されたカケスの記憶がエピソード記憶に類似しているということで、エピソード的記憶(episodic-like memory)と称した。この研究によって、それまで人間に特有だと考えられていたエピソード記憶が動物でも成立することが示され、これを契機に、様々な動物種で様々な課題を用いたエピソード記憶様行動の報告がなされるようになった。この研究では、エピソード記憶における「いつ・どこ・なに」という出来事の記憶という側面は動物にも成立することが示されたわけだが、一方で、過去の事象を遡って想起し、現在の事象と区別して認識するというエピソード記憶の意識的側面については、動物で十分に確認されたわけではないとの主張もなされた。この点では、この研究は、エピソード記憶という概念そのものの精緻化にも寄与したといえる。

#### 【問Ⅱ】

A

倫理原則の例として、守秘義務と多重関係の回避について説明する。守秘義務:実習で知りえた個人情報・事例を外部や SNS で扱わず、記録・相談も実習機関のルールに従う。要支援者との信頼関係とその安全を守るため重要。多重関係の回避:私的接触や過度な関与を避ける。関係が近くなりすぎると、冷静な判断が難しくなり、要支援者を傷つけたり可能性があるため重要である。自己評価は、個人のできている点と課題を挙げる。

B

反応時間を使用して記憶の情報処理に迫る研究例として、スタンバーク型の短期記憶の記憶走査の実験を

挙げる。この実験では、課題の各試行において、被験者は短い項目のリストが呈示され(たとえば、2,5,7,9のような数字),それを覚えることが求められる。その後、テスト刺激として呈示される項目が記憶したリストに含まれていたか(yes 反応)否か(no 反応)を答えることが求められる。実験ではリストの長さを操作し、yes/no 反応の反応時間がどのように変化するのかが検討された。実験の結果、yes 反応の場合でも no 反応の場合でも直線的に反応時間が増加することが認められた。反応時間が増加する直線の傾きは、記憶項目が一つ増加したことによって、テスト刺激と記憶リストとの照合に要する時間が増加したことによると考えられる。このことは、記憶リストの走査が並列的に処理されたのではなく、系列的に処理されたことを示唆している。また、yes 反応と no 反応のどちらも同様に記憶項目の増加に伴って反応時間が長くなったことは、照合の際に、テスト刺激と記憶リストが一致した際に走査を打ち切ってしまうのではなく、悉皆走査を行っていたことを示唆している。

## ■ 出題意図

### 【問Ⅰ】

この設問は、受験生各自が興味を持っているが研究テーマに関連する研究分野において特に重要だと考える研究の説明、およびその学問上の意義について問うことにより、当該研究テーマに関連する研究分野の状況をどのように理解しているのかを問うています。そのことを通して、受験生の文献読解力、知識、概念の理解力、思考力を総合的に問う意図があります。

### 【問Ⅱ】

#### A

この設問では、実習生に必要な倫理の理解の程度、自己評価、大学院での学修課題を具体的に述べられるかを見ることを意図しています。

#### B

この設問では、反応時間などの行動指標を用いて記憶あるいは感情の情報処理に迫る研究例の説明を求め、実験研究の基礎的な知識を問うています。反応時間などは実験心理学において最も基本的な従属変数の一つに相当します。それを用いて記憶や感情などの認知的情報処理に迫ることは実験研究を行う上での基本と考えられます。